イエスの告別説教（9）「もっと豊かな人生を生きるには」

メッセージノート　2022.3.13

ヨハネ 15:1-11 *[1] わたしはまことのぶどうの木、わたしの父はぶどう園の農夫です。[2] 父は、実のならない枝をみな切り落とし、実のなる枝はもっとたくさんなるように、余分な枝を整理なさるのです。[3] 父は、すでにあなたがたの枝を整理し、きれいに手入れをすまされたのです。[4] ですから、わたしのうちに生きるよう心がけなさい。またわたしが、あなたがたのうちに生きられるようにしなさい。枝は幹につながっていなければ、実を結べないでしょう。同じようにあなたがたも、わたしから離れたら、実を結ぶことはできません。[5] わたしはぶどうの木で、あなたがたはその枝です。人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては何もできません。[6] わたしから離れる者はだれでも、役に立たない枝のように投げ捨てられ、枯れてしまいます。最後には、ほかの枝といっしょに積み上げられ、焼かれてしまうのです。[7] しかし、もしわたしのうちにとどまり、わたしの命令に従うなら、何でもほしいものを求めなさい。きっとかなえられます。[8] わたしのほんとうの弟子となり、多くの実を結ぶことによって、父が大いにほめたたえられるのです。[9] 父がわたしを愛してくださったように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛のうちに生きなさい。[10] わたしの戒めを守るなら、わたしの愛のうちに生き続けます。わたしが父の戒めを守り、父の愛のうちに生きているのと同じです。[11] このことを話したのは、わたしのうちにあふれる喜びを共に味わいたいからです。*

◆　背景と健全な自己認識

- 旧約聖書では、イスラエルの民を「ぶどうの木」として喩えている。
  →詩篇 80, 128:2；イザヤ 5:1−7 ；エゼキエル 17:8；ヨエル 2:22；ゼカリヤ 8:12；マラキ 3:11。
  エレミヤ 2:21 *わたしはあなたを、まったく良い種のすぐれたぶどうの木として植えたのに、どうしてあなたは変って、悪い野ぶどうの木となったのか。*
- 単なる民への失望ではなく、この現状を踏まえた上で、これから神がしようとしていることがあることを述べている。神が愚痴をこぼしているのではない。正しい自己認識とともに、神の成長戦略の両方が必要。
- 「まこと」のぶどうの木(幹)であるイエスと、ぶどうを創造された「父」なる神が、イスラエルを実り豊かなぶどうの木へと成長させる方法をご存知であり、それは私たちの人生にも当てはまる。

◆　剪定から学べること：ぶどうの幹と枝との関係（写真）

1. **剪定の目的は豊かな実を結ぶため**
   - その目的の根底には、愛がある。「わたしはあなたがたを愛しました」(9)。
   - その純粋な愛である神は、私たちの成長に純粋な関心を持っておられる。「わたしはまことのぶどうの木」(1)の「まこと」とは、純粋、濁りのない清さという意味。
   - 神ほど、あなたの成長を本気で願い、信じて、そのための計画をお持ちの方は他にいない。
2. **刈込みは、例外なく全ての枝に行われる**
   - サボっている者だけに起こるのではない。ぶどう農園において、剪定（手入れ）というのは普通に、しかも頻繁に行われる作業。その作業をされるのは、優しく賢い園丁である天の父。
   - 剪定は、その時には決して喜ばしいことではないが、後になってその必要性とタイムリーであったことがわかる。すなわち、剪定は、愛され期待されている証拠。

ヘブル 12:10-11[10] 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。[11] すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。 ＊「平安の義の実」：痛みを通して、神のきよさにあずからせていただける。

3. **剪定が意味すること**

- 無駄にエネルギーを費やさないため、不要な部分を取り除き、力を注ぐべきところに集中させられる。
- 幹に繋がっていなければ、全く何もできない（5）：二重の否定による強調（絶対にできない）
- それゆえ、幹により強く意識的に繋がることを目指す(4)：二重のつながり（わたしがあなたに、あなたがたがわたしに）→不必要なものを手放し、最も必要なものを握りしめるようになる。
- 剪定というと、私たちに有無を言わせず切り取られてしまうという感覚を持つが、必ずしもそうではない。そこには、神との会話があり、従っていくプロセスがある。ここに成長がある。

➢ あなたが手放すように示されているのに躊躇していることは何か？

4. **剪定と人生の喜び**

- 剪定とは、神の最善の計画に従順になる(7)ことだが、それは、単に多くの実を結ぶだけではなく(8)、神の愛の中を生き(10)、人生を喜べるようになる(11)という。
- 本来の人間性への回復（神のかたち；三位一体の神が仕え合う愛の姿）への道である。より効果的な結果（収穫）を見ることができること以前の問題で、互いに仕え（与え）合う愛から溢れ出る喜びは、生きることの本当の意味を体現させる。ex. 喜んで子供のために自分を犠牲にする母親

ヨハネ 15:10-11 わたしの戒めを守るなら、わたしの愛のうちに生き続けます。わたしが父の戒めを守り、父の愛のうちに生きているのと同じです。このことを話したのは、わたしのうちにあふれる喜びを共に味わいたいからです。

➢ 神のみこころに従った結果として、喜びや神の愛に満たされたことはないか？

◆ 神の刈り込みに協力するには？

1. **神と会話を続ける**（揺るがない信頼関係こそが信仰の強さ。だからなんでも尋ねたら良い）

ヤコブ 1:5 神が何を望んでおられるか知りたいなら、遠慮なく、直接尋ねなさい。神は喜んで教えてくださいます。願い求める人には、神はいつでも惜しみなく、あふれるばかりの知恵を授けてくださるからです。そのことで、決してとがめたりはなさいません。(LB)

2. **刈り込みによって平安と愛をますます経験していく**

ローマ 5:1-5[1] ですから、信仰によって神の目に正しい者とされた私たちは、主イエス・キリストによって、神との間に平和を得ています。[2] 信仰のゆえに、キリストは私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。そして私たちは、私たちに対する神の計画がすべて実現するのを、喜びをもって待ち望んでいるのです。[3] ですから私たちは、さまざまの苦しみや困難に直面した時も喜ぶことができます。それによって忍耐を学ぶからです。[4] 忍耐によって私たちの品性が磨かれ、さらに、それによって希望が与えられるのです。こうして、私たちの希望と信仰は強められ、どんなことにも動じなくなるのです。[5] この希望は失望に終わることはありません。それは、神が聖霊を与えてくださり、その聖霊が私たちの心に神の愛を満たしてくださっているからです。(LB)

◆ まとめ

- 今神は、あなたたにどんな「刈り込み」をされているか？
- そのことで神とどこまで膝を突き合わせて話し合ってきたか？
- 何があなたの剪定を難しくしているのだろうか？